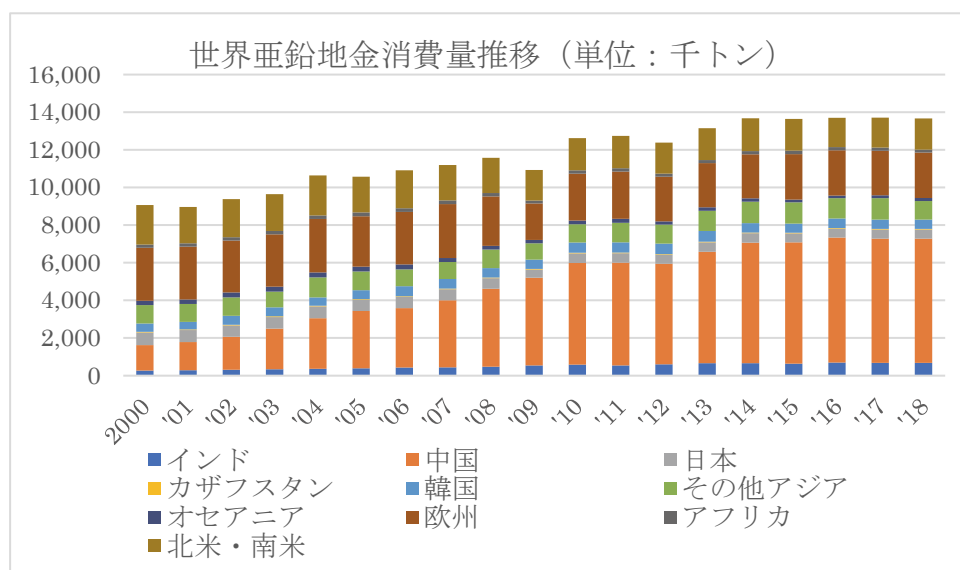


3.3. 亜鉛の需給

3.3.1. 亜鉛地金の国際需給

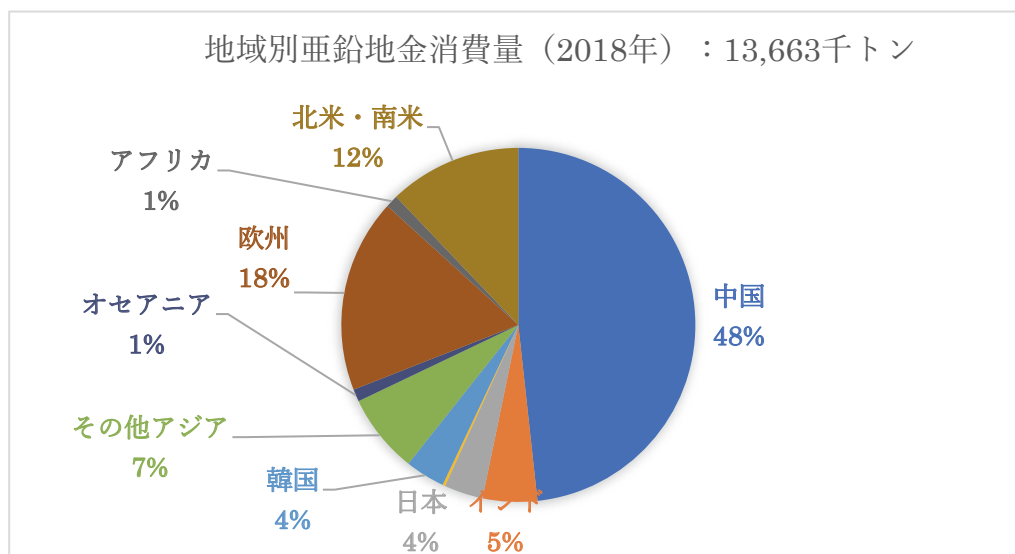
世界の亜鉛需要は 2000 年以降増加傾向であったが、2014 年以降は横ばい傾向を示している。図 3-3-1-1 で消費量推移を、図 3-3-1-2 で国地域別消費量（2018 年）を示す。

中国は世界最大の亜鉛の消費国であり、2018 年で世界全体の 48%を占める。その他の国別、地域別の消費量は横ばいあるいは減少傾向にある。



（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

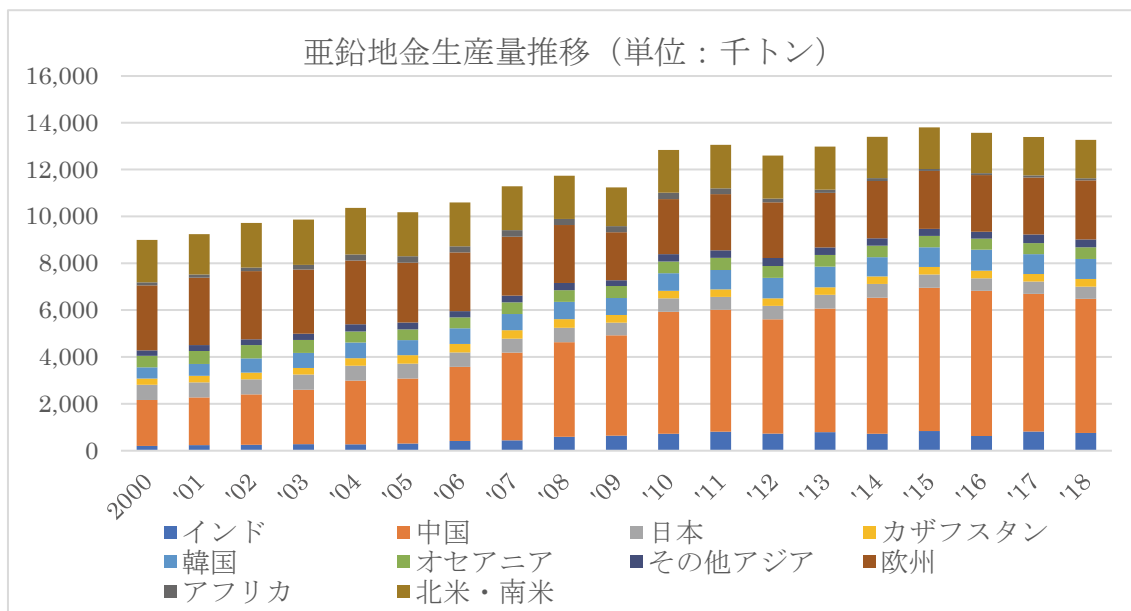
図 3-3-1-1 2000 ～2018 年世界亜鉛地金消費量推移



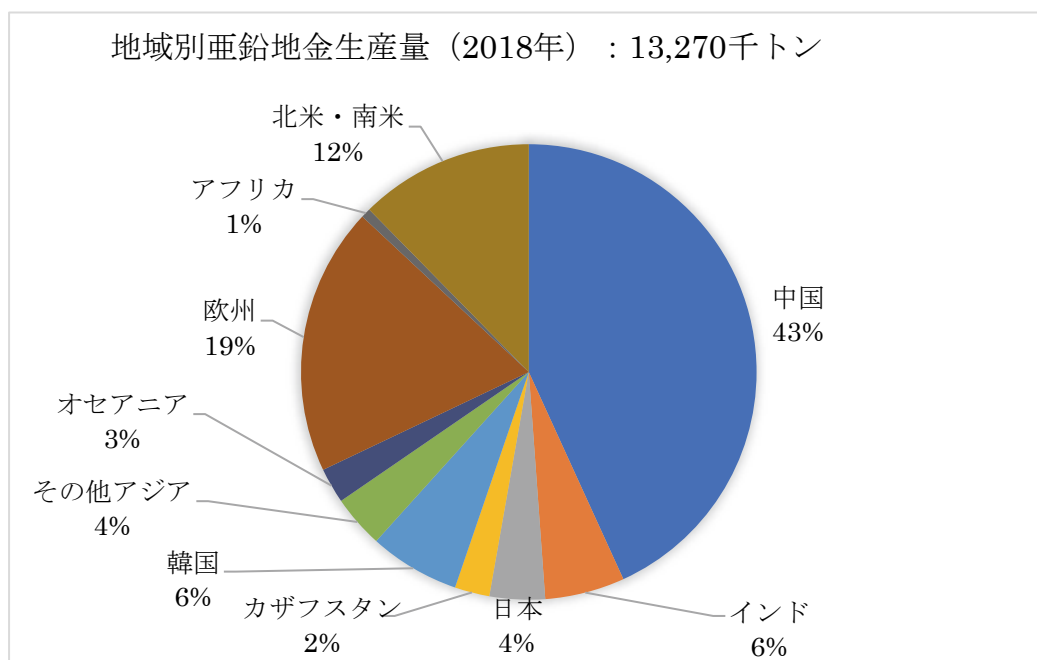
（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-3-1-2 地域別亜鉛地金消費量

次に、世界の亜鉛生産量推移を示すが、2015年をピークにやや減少傾向を示している。図3-3-1-3で生産量推移を、図3-3-1-4で国地域別生産量（2018年）を示す。世界の亜鉛生産量についても、国内需要の増大とともに中国が世界のトップの座にあり、43%を占める。中国には比較的豊富な亜鉛資源があることから、亜鉛消費量にほぼ見合った生産量が確保されている。

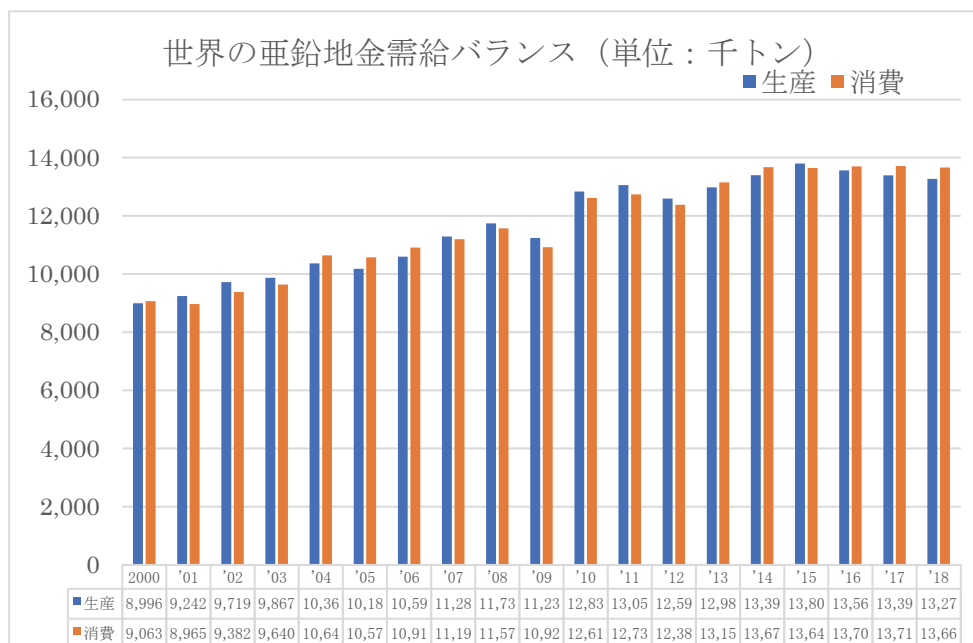


（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成
 図 3-3-1-3 2000～2018 世界亜鉛地金生産量推移



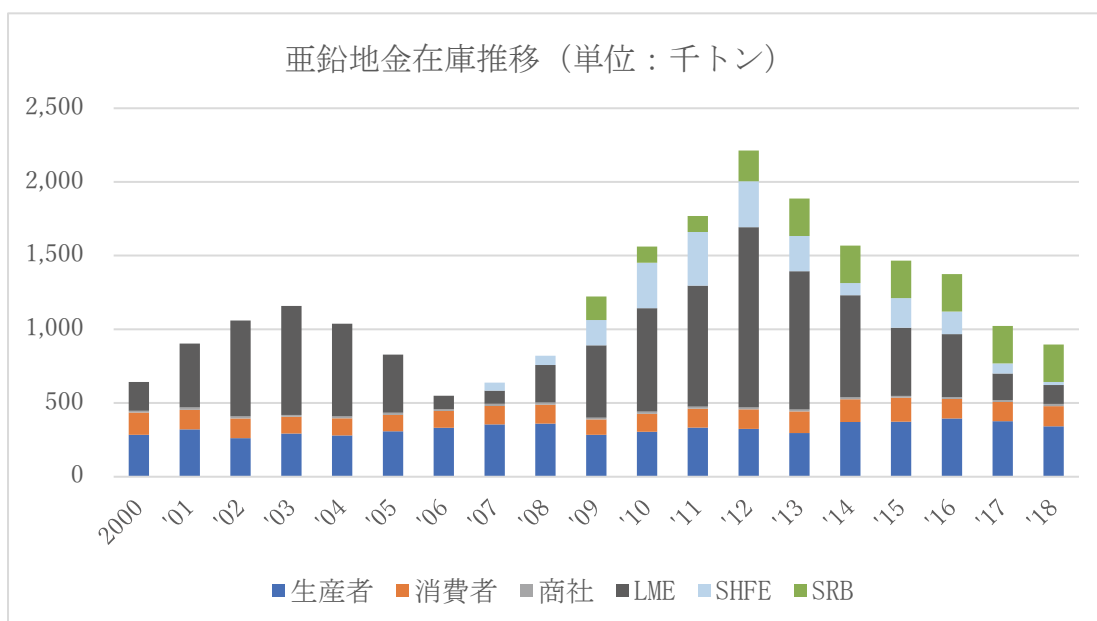
（出典）ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成
 図 3-3-1-4 地域別亜鉛地金生産量

次に、世界の亜鉛地金の需給バランスを図 3-3-1-5 で示す。また、需給バランスによって変動する亜鉛地金在庫推移を図 3-3-1-6 で示す。供給過剰と供給不足はそれぞれ数年間継続する傾向にあることが亜鉛地金在庫推移から読み取れる。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-3-1-5 地域別亜鉛地金生産量

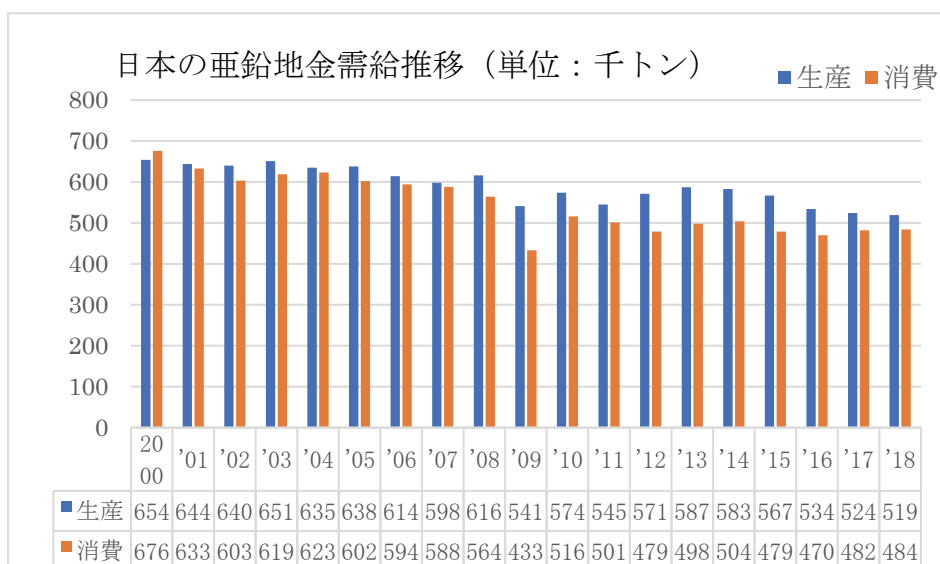


(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-3-1-6 亜鉛地金在庫推移

3.3.2. 亜鉛地金の国内需給

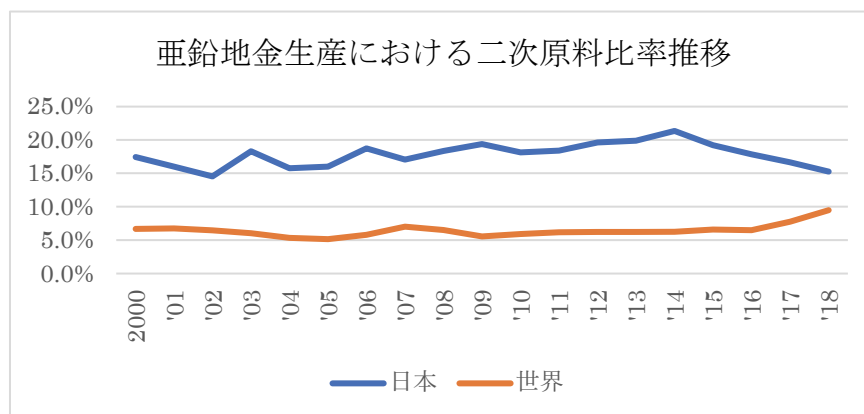
2000～2018年の日本の亜鉛地金需給推移を図3-3-2-1に示す。この約20年間で日本の亜鉛需要は約30%低減しているが、亜鉛生産は20%程度の低減に留まっており、世界的な需給バランスとは異なった動きで、2001年以降は常に供給過剰状態が継続しており、亜鉛地金は輸出ポジションにあることがわかる。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-3-2-1 日本の亜鉛地金需給推移

亜鉛地金生産における二次原料比率推移を図3-3-2-2に示す。日本の二次原料比率は15%以上と世界の10%以下をリードしているものの、日本の比率が2014年をピークに下降トレンドを示していることが気付きである。



(出典) ILZSG Monthly bulletin of the ILZSG December 2019 より MERIJ 作成

図 3-3-2-2 亜鉛地金生産における二次原料比率推移